

27AB-pm430

女子中高生の理系進路選択支援プログラムにおいて大学生が中高生に教える屋根瓦式教育の効果

○岡田 みどり¹, 中村 裕子¹, 岡谷 理恵子¹, 佐藤 梓¹, 齋藤 加代子¹, 大野 尚仁², 井上 みち子², 深見 希代子³, 渡邊 弘美⁴ (東京女子医大医,²東京薬大薬,³東京薬大生命,⁴淑徳大看護栄養)

【目的】東京女子医大では、JSTの支援を受け、東京薬科大学、淑徳大学などとの協力体制で医療系の進路に興味を持つ女子中高生を対象に「未来のいのちと健康を支えるのはあなた」プログラムを実施している。このプログラムは、様々な理系学部の研究が現代の最先端医療や国民の健康な生活を支えていること、医療系学部の卒業進路の多様性、そこで学ぶ楽しさ、などを中高生に知ってもらうことを目的としている。この取り組みに学生が teaching assistant (以下TA) として参加することにより、中高生の学びが深まるとともに学生自身にも良い影響が期待されることから、このいわゆる「屋根瓦方式」の教育効果について検証した。【方法】平成27年度に行った、医療シミュレーション、実験体験(東京女子医大医学部)、研究室訪問、模擬薬局体験(東京薬大薬学部・生命科学部)、嚥下食調理体験と看護シミュレーション(淑徳大学看護栄養学部)において、TAを務めた学生(22名)およびプログラム参加者(女子中高生、保護者)を対象にアンケートを実施した。【結果】学生へのアンケート結果では、後輩である中高生を指導することにより、「自ら学ぶ事に対する意欲が増したか」「関連する科目について理解を深められたか」という問いに対して positive な回答をした学生は約90%であり、73%は、それが「関連する科目についての自分の自信につながった」と答えた。と同時に、「人に教えることに対する自分の自信につながった」と答えた学生も73%で、その結果「将来自分が指導的立場になることについて興味が高まった」(86%)と感じていた。一方、参加した中高生からも「間近に大学生と接することで憧れの心がより一層深まった」「現役の大学生に会えて、勉強を頑張ろうと思えた」などの感想が得られ、TA参加による屋根瓦方式の教育効果が明らかになった。